

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	総合的な学習 の時間 特別活動

【題材】「交流学习を通して、地域やボランティア、支援の方々への感謝の気持を育成するとともに、郷土を愛し、郷土を誇りに思う人を育成する。」

具体的活動：①江刺一中との部活動交流
②郷土芸能の学習・発表(文化祭、県中文祭での発表)
③仮設住宅との交流(12月22日実施予定)

【対象】 全校生徒 (1年22名、2年17名、3年19名 計58名)

【実践の概要】

6月6日(金) 奥州市立江刺第一中学校との部活動交流(於：江刺一中)

◇震災直後から支援を受けている江刺一中と、部活動交流を行った。部活毎に練習場所に分かれて活動をおこない、帰り際にはエール交換を行うなど、心温まる交流となった。日頃自校以外の学校の活動を知る機会の少ない本校生徒にとっては、望ましい部活動の在り方を知る意味でも実り多い学習機会となった。



10月14日(火) 郷土芸能についての講話(越喜来中学校体育館)

◇郷土芸能の練習開始に先立って、各地区の保存会長、芸能部長より、歴史的な背景、踊りの意味、込められた思い等について説明を受けた。多くの生徒は小学生の頃から郷土芸能の活動は行っているものの、具体的な説明は初めての生徒が多く、より深く学習する機会となった。



〈講師〉
浦浜念仏剣舞保存会
会長 古水 力 氏
崎浜念佛剣舞保存会
会長 中野勇喜 氏
甫嶺芸能部
部長 中村敬喜 氏

〈生徒の感想〉

- ・各地区の郷土芸能は、何年もの歴史の間に、地域の人達が誇りを持って踊ってきたものなんだと、あらためて感じました。(1年女子)
- ・剣舞をする前に、その意味などを教えてもらいました。動作の一つ一つに意味があることを知りました。それは、地面を踏むときに、悪霊を鎮めるということでした。その意味を考えながら踊ろうと思います。(3年男子)
- ・剣舞の起源について地域の方からお聞きしましたが、起源を知らないまま踊るのと知って踊るのでは、踊りに込める気持ちが全然違うなと思いました。(3年女子)

10月14日(火)～10月25日(土) 文化祭に向けた郷土芸能練習(計10回)

(体育館、多目的教室、校庭 10/14 15:30～16:40、10/15～16:00～16:40、10/25 11:40～12:20)

◇文化祭での発表に向け、地域の保存会の方々の指導のもと、計10回に渡って練習を行った。文化祭での郷土芸能発表は昨年度から始まっているが、昨年度は3年生のみの発表で、全校生徒による発表は今年度がスタートとなる。保存会の方々から連日熱心なご指導を頂いた。



10月26日(日) 文化祭での郷土芸能発表

◇生徒会スローガン「SHINE ～煌めけ58個の星たち～」のもと行われた文化祭のステージ発表の一つとして郷土芸能発表が行われた。当日は保護者の他、「三陸の園」のお年寄り等、大勢の地域の方々に来場していただいた。一地区十数分の演目だが、全校生徒による発表は迫力十分で、特にも年配の方々からは大変好評を博した。



「浦浜念仏剣舞」



「崎浜念佛剣舞」



「甫嶺獅子舞」

※郷土芸能に必要な衣装や用具類は保存会から持ち込まれたほか、越喜来小学校からも借用して使用した。また、浦浜地区では舞い以外に4名の生徒が太鼓や横笛に新たに挑戦した。

11月11日(火)～11月20日(木) 県中文祭に向けた郷土芸能練習(計6回)

(体育館、多目的教室、校庭 15:30～16:30)

◇県中文祭に向けては、出演時間の制約があるために演目内容を各地区5分程度にアレンジする必要があった。また、崎浜地区ではCDに録音した伴奏を使用するが、演目内容の調整に伴い、保存会の協力を得てあらためて録音をし直した。



※郷土芸能の練習開始にあたっては、毎回、保存会長、芸能部長との打合せを行うが、県中文祭に向けての内容の調整は、各保存会の裁量にお任せした。結果的に短時間の中で最も盛り上がりを見せる内容に整えていただいた。

11月21日(金) 岩手県中学校総合文化祭での郷土芸能発表(岩手県民会館大ホール)

◇当日は、全校で、しかも3地区それぞれの郷土芸能を発表することが出来た。保存会の方々には、平日にもかかわらず大勢参加していただき、出演時間ぎりぎりまで衣装の着付けの補助など指導、支援をして頂いた。また、遠隔地にもかかわらず多くの保護者も観覧に訪れ、応援して頂いた。



「浦嶺獅子舞」



「崎浜念佛剣舞」



「浦浜念仏剣舞」



「ありがとうございました！」



「将来の夢は？」



記念撮影

〈生徒の感想〉

- ・僕は剣舞が好きで、小学校で剣舞が終わるのかなと思っていましたが、中学校でも剣舞をやることができるととても嬉しいです。剣舞ができるのは指導者の方々が教えてくれるからなので感謝しています。本番は緊張したけど自分の力が出せました。終わった後の拍手がすごくてとても達成感がありました。(1年男子)
- ・長年続いてきた伝統を自分たちが引き継ぐことができるということは、「とても恵まれているんだな」と感じました。県中文祭では、指導して下さった方々への感謝の気持ちを持って精一杯踊ることが出来ました。衣装が下がってしまうハプニングもありましたが、練習以上に楽しんで出来ました。(1年女子)
- ・地域の人達と話す機会があまりなかったので、郷土芸能の練習を通して良い交流が出来たと思います。来年はもっと迫力のある郷土芸能にしたいです。県の中文祭では自分の持っている技術、教えられたことを最大限に出せたと感じました。(2年男子)
- ・横笛は初めてのことで、何も分からずにいましたが、保存会の先生方に毎日教わり、家でも復習しているうちに吹けるようになりました。どんなことでも練習を積み重ねた分だけ上手になっていくんだと思いました。たくさんの人が見ている中、二人で笛を吹けるかとても心配でしたが、幕のほうから先生方もサポートしてくれて、堂々とやることができました。(2年女子)
- ・郷土芸能への取り組みを通して、自分の地域の郷土芸能に誇りを感じました。他の地域にもいろんな郷土芸能がありますが、自分の住む独自の郷土芸能を一生懸命踊ることが出来て良かったです。地域でもまた踊る機会があるので、積極的に参加して郷土芸能を伝えていきたいです。10月に平泉に行って踊りましたが、やはり盛岡の県中文祭で自分の住む地域の郷土芸能を踊れたのはすごいことだと思いました。(3年男子)
- ・この1年間の郷土芸能の取り組みを通して感じたことは、自分が崎浜で育って、体が剣舞を覚えていたことです。小さい頃から剣舞を見て育ったので、今でも体に染みついています。このことから、僕は剣舞を踊っていくことで、次の世代につなげていくことが大切だと感じました。(3年男子)

【まとめ】

- ・郷土芸能の取り組みを通して、地域文化への理解を深めるとともに、伝承に係わる人々の強い思いに触れ、地域の郷土芸能に誇りを持つようになった。
- ・江刺一中との部活動交流や郷土芸能の指導者との交流を通して、支援や指導に対して感謝の気持ちを持つとともに、様々な人々との交流の大切さについて再認識する機会となった。
- ・文化祭や県中文祭で郷土芸能を披露し、保護者や地域の方々に感動や喜びを与えられたことで、伝えることの意義を感得できたとともに、地域文化を伝承することへの大きな意欲付けとなった。
- ・生徒の中には転入したり、新しい役付けで不慣れな場合があったが、指導者から連日熱心な指導を受けることで、続けて努力することの大切さや困難を克服したことで得られる達成感を実感した生徒が多かった。
- ・次年度は、今年度同様に全校体制で郷土芸能に取り組み、地域との連携を深めるとともに、伝承活動を学校の伝統として構築していきたい。また、復興教育の教育的価値「いきる」「そなえる」についても、地域連携を基盤に活動の焦点化・具現化を進めたい。

